

「大学の知を支援するセンターマシン」ワークショップ報告

標記のワークショップが、2006年9月6日(水)、東京大学武田先端知ビル 武田ホールを会場として開催されました。

米澤センター長の挨拶に続き、星野利彦 文部科学省 情報科学技術研究企画官にご挨拶いただきました。

第1部パネル討論「計算センターの新しい役割」では、学術情報センター坂内正夫所長の司会により宇川 彰 (筑波大)、米澤 明憲 (東大)、美濃 導彦 (京大) の各センター長に討論いただきました。

第2部では、本センター石川教授から、筑波大、東大、京大が共同で進めている次期センターマシンに関する Feasibility Study に関する中間報告に続き、パネル討論「次期センターマシンに求められるもの」と題して佐藤三久 (筑波大) の司会により、大規模科学技術計算から新興応用分野まで、幅広く応用分野の研究者として押山淳 (筑波大)、淡路敏之 (京大)、森下真一 (東大)、重田育照 (東大)、高田俊和 (NEC)、朴泰祐 (筑波大)、石川裕 (東大)、中島浩 (京大) の各氏をパネリストにお迎えし、応用分野の紹介、次期センターマシンのあるべき姿について議論しました。討論の後には、フロアからの質問に各発表者から回答しました。

当日は雨模様の天候であったにもかかわらず、約200名もの参加を得て盛況のうちにワークショップは終了いたしました。

なお、筑波大、東大、京大が共同で進めている次期センターマシン構想に関するプレスリリースについては、<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/press/> に掲載しております。



第2部「次期センターマシンに求められるもの」パネル討論の様子。